

＜全体分析＞		試験時間	105 分
解答形式 記述式 分量・難易（前年比較） 分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加） 難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化） 本文の語数は、昨年は 2,006 words、今年は 2,290 words で 284 words 増加した。 出題の特徴や昨年との変更点 読解総合 2 題、その他（対話文）1 題、英作文 1 題の構成は昨年と同じ。 その他トピックス ・読解総合問題では、説明問題が 3 問から 1 問に、下線部和訳問題が 3 問から 2 問に減少した。 ・大問Ⅱで、選択した解答の理由を説明させる問題が新しく出題された。 ・大問Ⅳは、昨年の図の説明と図の表す内容の説明から、ソーシャルメディアの影響を書く問題と、その個人的な事例について理由を 2 つ含めて書く問題に変わった。 ・自由英作文の制限語数は、大問Ⅲが 20～30 words から 30～40 words に、大問Ⅳは 30～50 words の 2 問から、30～40 words と 40～50 words になったが、大きな変化はなかった。 ・昨年に続いて和文英訳問題は出題されなかった。			

＜大問分析＞

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	読解総合	「鉄道の発達に伴う飲食施設の展開」 (本文:792 words) (設問:159 words)	イギリスの鉄道技術は優秀で、諸外国がひな形とするほどのものであったが、乗客に快適さを与える設備の面では不十分であった、と論じる英文で、語数は昨年の 653 語から 139 語増えたが、読みやすい文章であった。設問数は昨年と同じ 6 問であった。 1.では本文中の 3 ヶ所の空所に適切な語句を補う問題が出題された。2.では比例の意味の接続詞 as を含む和訳問題が出題された。難単語はないものの、refreshment rooms の訳出には苦労しただろう。3.では下線部の語の言い換え問題が出題された。下線の語の直前にある even more に着目し、その前の記述の繰り返しになっていると気づけば易しい。4.の和訳問題は so ～ that ...と接続詞の before を含む問題であった。5.の空所補充問題は「オーストラリア人のライター」とデイヴィッド・バートンの視点の違いを読み取る必要があった。6.の内容一致文選択問題は、誤りの選択肢が判断しやすく、易しい問題だったと言えるだろう。 1. 空所補充（3 ヶ所、選択肢 7 個） 2. 下線部和訳	やや易

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
II	読解総合	「言語が人の思考に与える影響について」 (本文: 804 words) (設問: 209 words)	3. 下線部同義語選択 (選択肢 4 個) 4. 下線部和訳 5. 空所補充 (1 ヶ所, 選択肢 4 個) 6. 内容一致 (選択肢 5 個から 2 つ選択) 《出典》 Quinzio, Jeri. <i>Food on the Rails: The Golden Era of Railroad Dining</i>. (2014) Lanham: Rowman & Littlefield. (大学発表) 言語が人の思考に与える影響について書かれた英文であった。受験生にはやや馴染みのないテーマであり、分量はかなり増加したので難しく感じられたであろう。1. は空所に適した具体例を選択し、選んだ選択肢が文意に沿う理由を説明する問題。文章の内容を踏まえて書く必要があり、やや難しかった。2. は語句整序問題で語群は 9 語であった。3. では段落のトピックセンテンスの選択問題が出題された。この形式の出題は 2021 年から 5 年連続である。4. の空所補充は文意に沿って前置詞などを選ぶ問題で、頻出の表現が多いので解きやすかったと思われる。5. と 6. は文脈に合うように空所に適語を入れる問題だった。 1. 空所補充と根拠の説明 (60 字以内) 2. 語句整序 (語群 9 語) 3. 適文補充 (4 ヶ所, 選択肢 6 個) 4. 空所補充 (6 ヶ所, 選択肢 9 個) 5. 空所補充 (1 ヶ所, 選択肢 4 個) 6. 空所補充 (1 ヶ所, 選択肢 4 個) 《出典》 Kormos, J., & Smith, A. M. <i>Teaching languages to students with specific learning differences</i> (2nd ed.). (2024) Bristol: Multilingual Matters. (大学発表)	やや難
III	その他 (対話文)	「50 年後の世界に関する友人同士の会話」 (本文: 604 words) (設問: 300 words)	2 人の友人が、将来の世界がどのようなになっているかについて話し合う対話文で、選択問題が中心であった。4. は誤ったものを選ぶ問題で、やや難しい語彙を含む選択肢があった。5. は「50 年後の世界で変わっていないであろうこと」についての一例を 30～40 words の英語で述べる問題だった。 1. 同意文選択 (選択肢 5 個から 1 つ選択) 2. 内容説明選択 (選択肢 5 個から 1 つ選択) 3. 内容一致 (選択肢 5 個から 1 つ選択)	標準

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
IV	英作文	「ソーシャルメディアが及ぼす影響」 (本文: 90 words)	4. 内容一致 (選択肢 5 個から誤ったものを 2 つ選択) 5. 自由英作文 (30～40 words) ソーシャルメディアが社会におけるコミュニケーションに及ぼす影響と, ソーシャルメディアが存在しなかったら自身の生活にもたらされるであろう変化を述べる問題だった。1.は個人的な経験を含めずに客観的に述べること, 2.は理由を 2 つ書くことが求められていた。 1. 自由英作文 (30～40 words) 2. 自由英作文 (40～50 words)	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 読解総合問題では、論旨展開の把握を問う問題の出題が続いている。このような問題に対処するためには、論旨展開や文章の構成に留意して読み進める練習が必要である。また内容説明問題に関しては、必要な情報を制限字数内でまとめる力を養成する必要がある。演習には北海道大、東北大、筑波大、大阪大などの長文問題が利用できる。
2. 対話文読解で出題される自由英作文対策としては、東北大の問題が利用できる。
3. 自由英作文では、意見表明型に加えて、昨年出題されたような図・絵などの説明や、一昨年まで出題されていたグラフ・表などの読み取りに関する問題も練習しておこう。